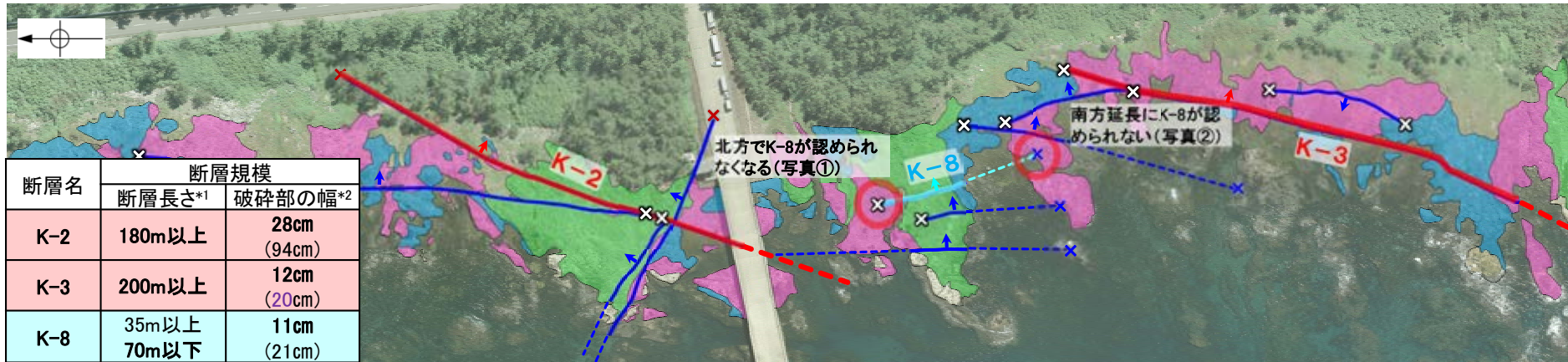


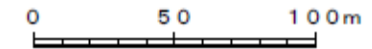
【K-8とK-2, K-3の関係】



*1: 露頭もしくはボーリングにより破碎部が認められないことを確認した地点までの長さ。端部が確認できなかったものを〇m以上と記載。延長部が海中等となる箇所は、断層を直接確認した長さ及び延長の露岩域等で断層が確認されなかった地点までの長さをそれぞれ算定し、〇m以上〇m以下という記載とした。

*2: すべての破碎部の平均値(下段括弧内は最大値)

海岸部露岩域の断層の分布図

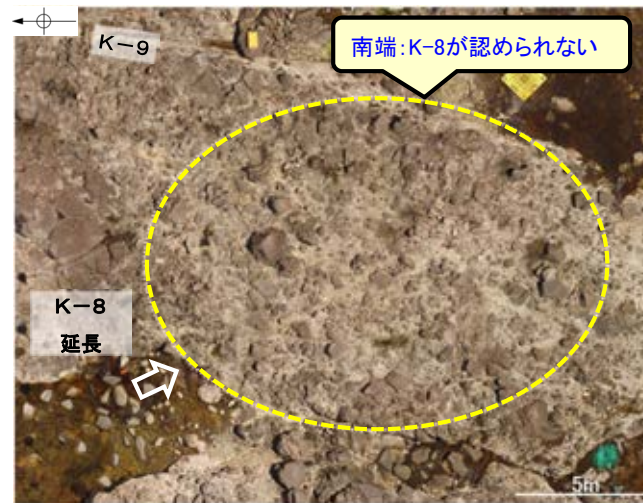


凡例

- 別所岳安山岩類 安山岩(均質)
 - 別所岳安山岩類 安山岩(角礫質)
 - 別所岳安山岩類 凝灰角礫岩
 - K-8(地表面)
(破線はさらに延長する可能性のある箇所)
 - K-2, K-3(地表面)
(破線はさらに延長する可能性のある箇所)
 - 上記以外の断層(地表面)
(破線はさらに延長する可能性のある箇所)
 - 露岩域で直接断層が連続しないことを確認したもの
 - ボーリングで断層が連続しないことを確認したもの
 - 断層延長部の露岩域で断層が認められないことを確認したもの
 - 断層端部を確認していないもの
- 矢印(♣)の向きは断層の傾斜方向を示す



写真①

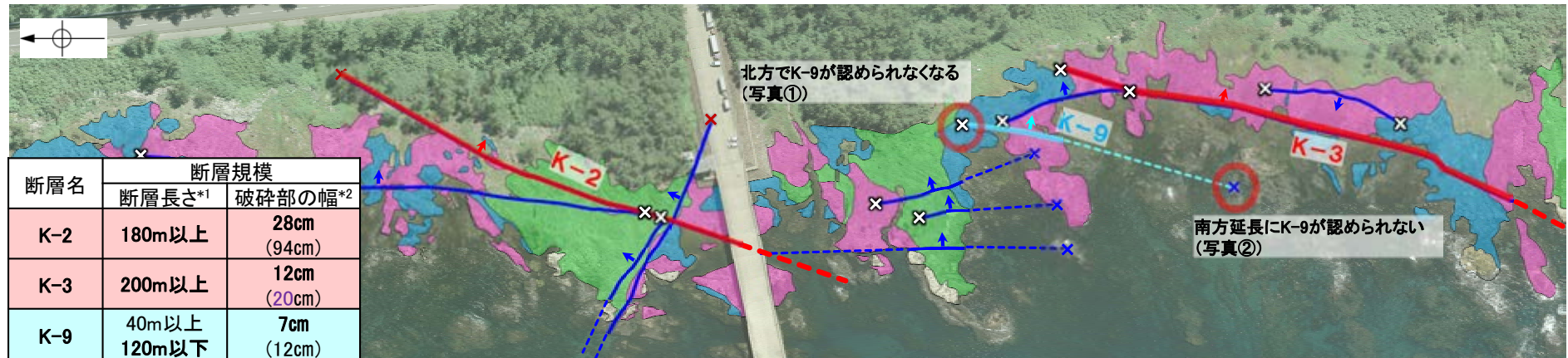


写真②

(端部の詳細データについては、[補足資料2.3-4\(18\)](#))

- K-8は、北方、南方延長の露岩域まで断層が連続せず、雁行して分布するK-2, K-3の間に分布する(上図)。
- K-8は、K-2に比べて、破碎部の幅が小さい(上図左表)。

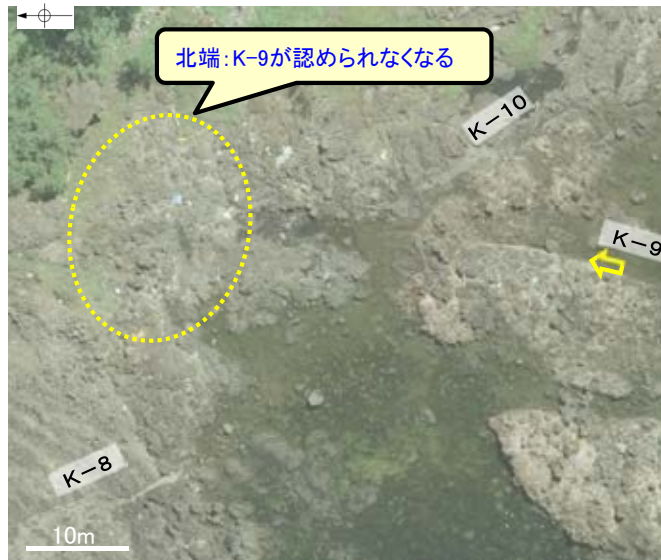
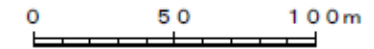
【K-9とK-2, K-3の関係】



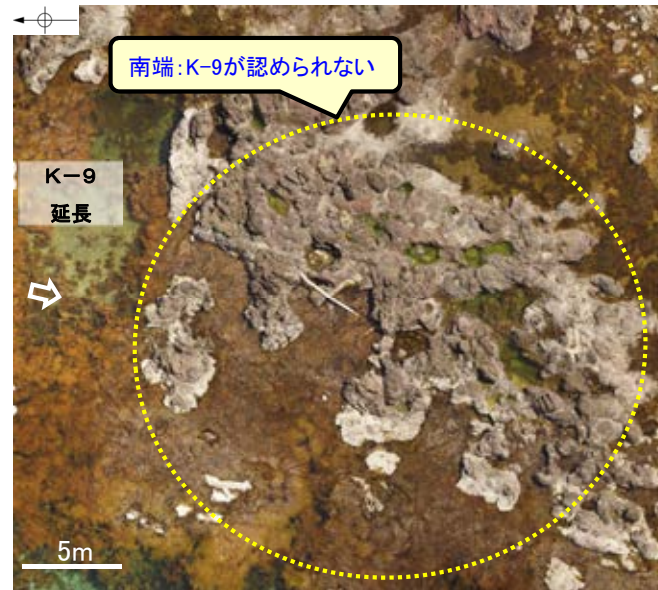
*1: 露頭もしくはボーリングにより破碎部が認められないことを確認した地点までの長さ。端部が確認できなかったものを0m以上と記載。延長部が海中となる箇所は、断層を直接確認した長さ及び延長の露岩域等で断層が確認されなかった地点までの長さをそれぞれ算定し、0m以上0m以下という記載とした。

*2: すべての破碎部の平均値(下段括弧内は最大値)

海岸部露岩域の断層の分布図



写真①



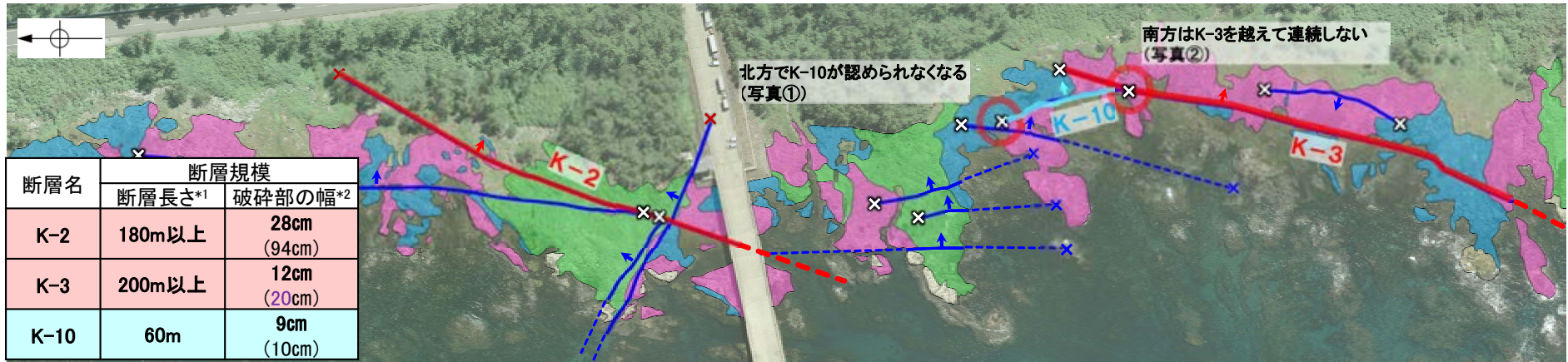
写真②



(端部の詳細データについては、[補足資料2.3-4\(19\)](#))

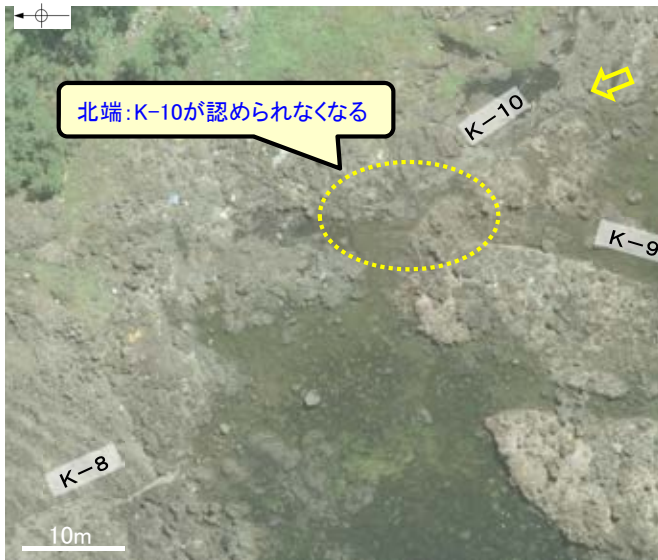
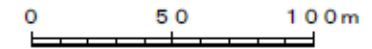
- K-9は、北方、南方延長の露岩域まで断層が連続せず、雁行して分布するK-2, K-3の間に分布する(上図)。
- K-9は、K-2, K-3に比べて、破碎部の幅が小さい(上図左表)。

【K-10とK-2, K-3の関係】

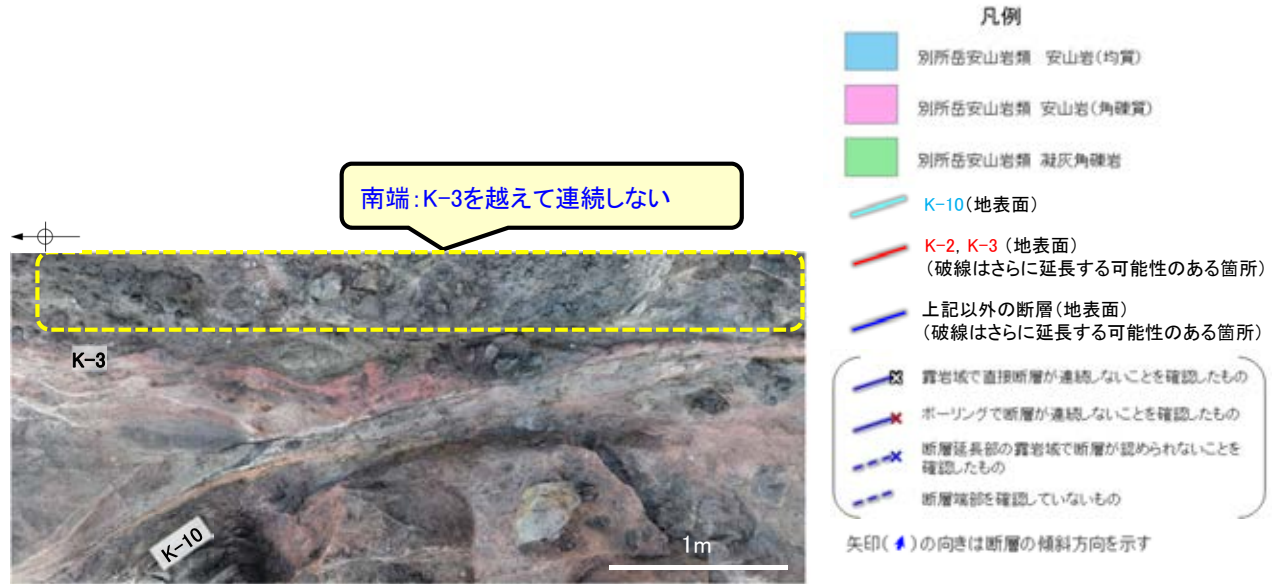


*1: 露頭もしくはボーリングにより破碎部が認められないことを確認した地点までの長さ。端部が確認できなかったものを0m以上と記載。
*2: すべての破碎部の平均値(下段括弧内は最大値)

海岸部露岩域の断層の分布図



写真①



写真②

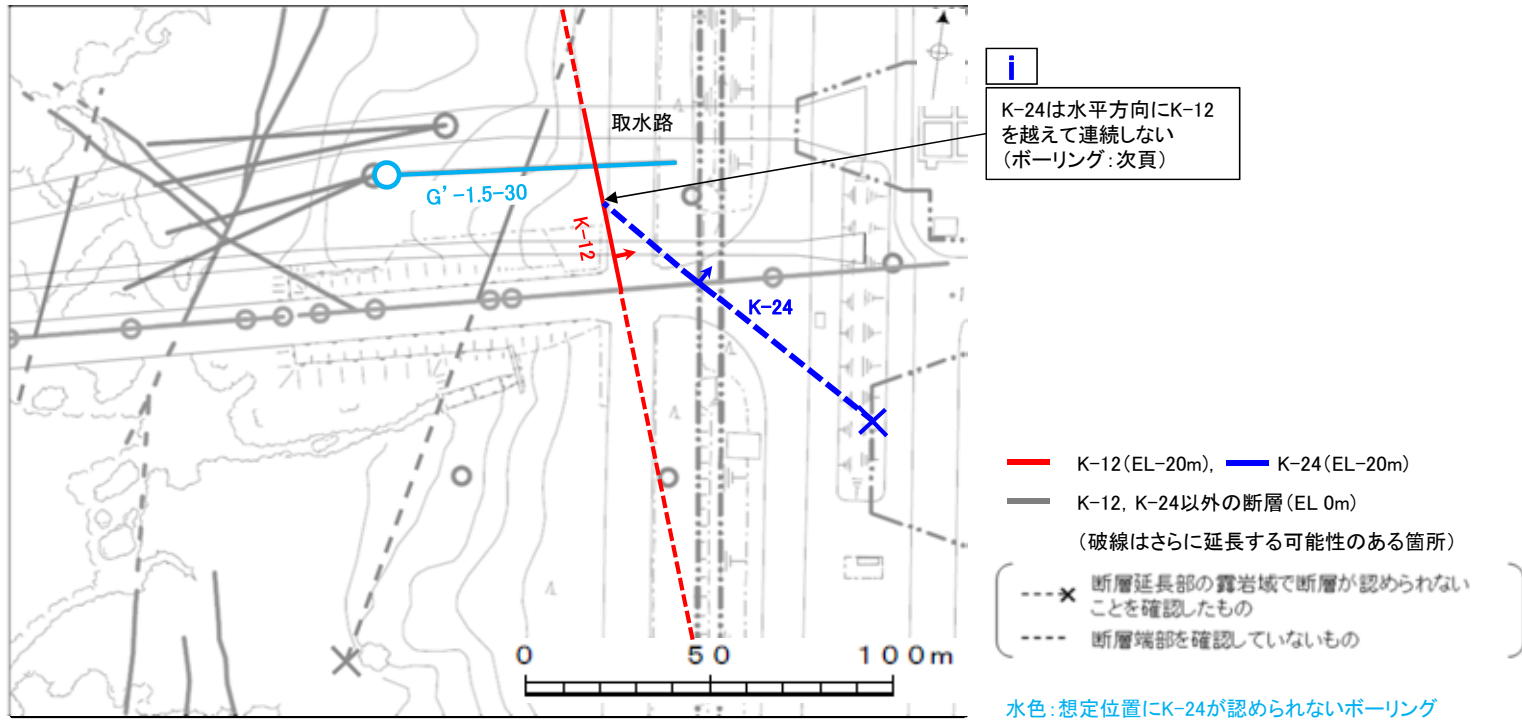
(端部の詳細データについては、[補足資料2.3-4\(20\)](#))

- K-10は、北方は露岩域を、南方はK-3を越えて連続せず、雁行して分布するK-2, K-3の間に分布する(上図)。
- K-10は、K-2, K-3に比べて、破碎部の幅が小さい(上図左表)。

(4) K-24とK-12の関係

K-24とK-12の関係

OK-24は、K-12に比べて、破碎部の幅が小さい(左下表)。
 OK-24は、水平方向にK-12を越えて連続しない(下図 i, 次頁)。
 OK-12は、ステップ2において、同系統に区分され、断層規模が大きいK-2とK-18に評価を代表させている(右下表)。
 O以上のことを踏まえると、K-24は、隣接するK-12を越えて連続しない断層であり、かつ、K-12に比べて破碎部の幅も小さいことから評価対象とせず、評価対象断層として選定されているK-2とK-18(K-12と同系統)に評価を代表させる。



矢印(➡)の向きは断層の傾斜方向を示す 調査位置図

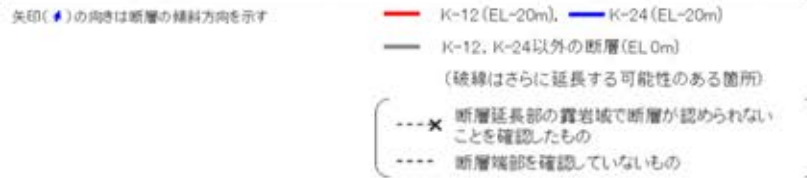
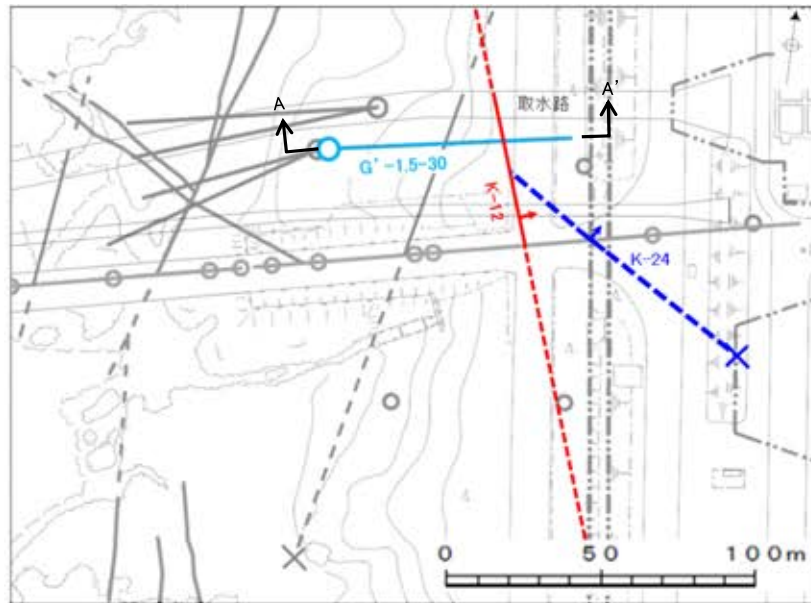
ステップ2の検討結果

断層名	断層規模	
	断層長さ*1	破碎部の幅*2
K-24	105m以下	10cm (11cm)
K-12	50m以上 310m以下	13cm (21cm)

*1: 露頭もしくはボーリングにより破碎部が認められないことを確認した地点までの長さ。端部が確認できなかったものをOm以上と記載。海岸部において、延長部が海中等となる箇所は、断層を直接確認した長さ及び延長の露岩域等で断層が確認されなかった地点までの長さをそれぞれ算定し、Om以上Om以下という記載とした。
 *2: すべての破碎部の平均値(下段括弧内は最大値)

断層名	走向・傾斜		運動方向		系統区分	断層規模			検討結果
	一般走向(真北)と系統	傾斜	固結した破碎部	粘土状破碎部		断層長さ*1	破碎部の幅		
							最大値	平均値	
K-2	N19° E II	72° SE	正断層	右・左横ずれ逆断層(縦ずれ卓越)	II・東・逆系	180m以上	94cm	28cm	評価対象断層
K-18	N8° E II	78° SE	正断層	右横ずれ逆断層(縦ずれ卓越)		40m以上	55cm	51cm	評価対象断層
K-12	N21° W II	72° NE	正断層	右横ずれ逆断層(縦ずれ卓越)		50m以上 310m以下	21cm	13cm	K-2, K-18で評価

【K-24とK-12の関係(ボーリング断面)】



水色: 想定位置にK-24が認められないボーリング

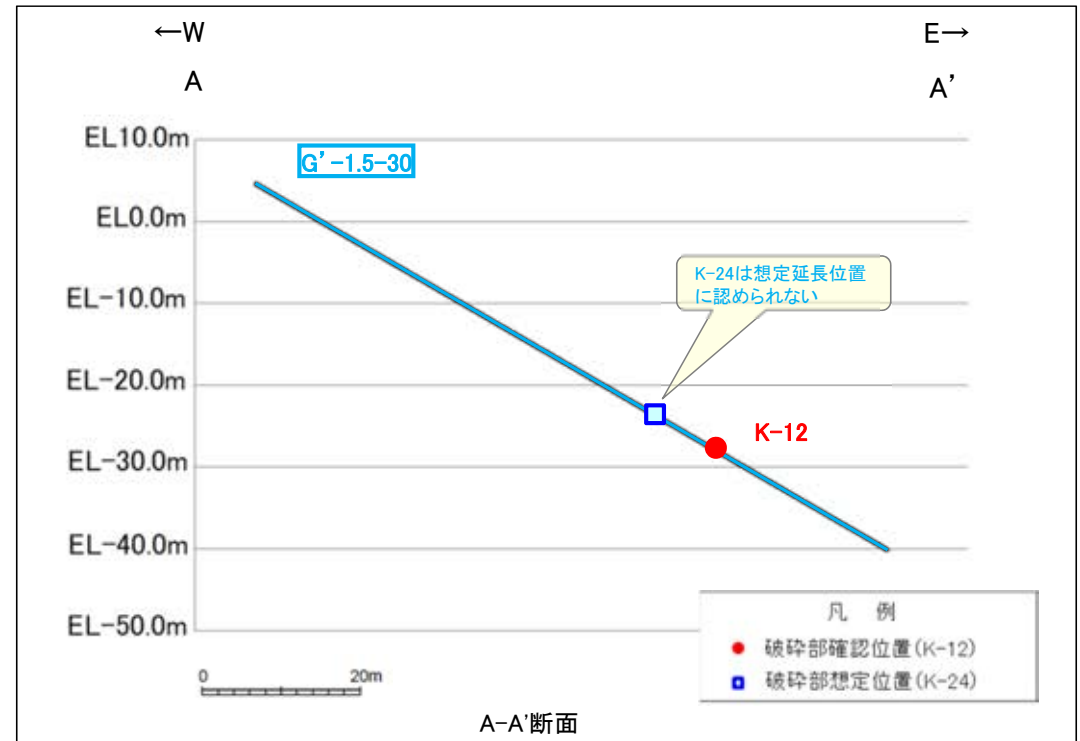
位置図

- ・K-12(左上図—)は、連絡道路、さらにK-24を越えた北方延長のG'-1.5-30孔に認められ(右上図●), 取水路まで連続する。
- ・一方, K-24(左上図—)は、連絡道路で認められるが, 北方延長のG'-1.5-30孔において想定延長位置付近(右上図□)に認められない。

(K-24が確認されなかった想定延長位置付近の写真は次頁)



- ・K-24は水平方向にK-12を越えて連続しない。



K-12 破砕部のコア写真

- 破砕部
- ①-1 固結した粘土・砂状破砕部
- ②-2 固結した角礫状破砕部

65.4 65.5 65.6 65.7 65.8 65.9 66.0 (m)



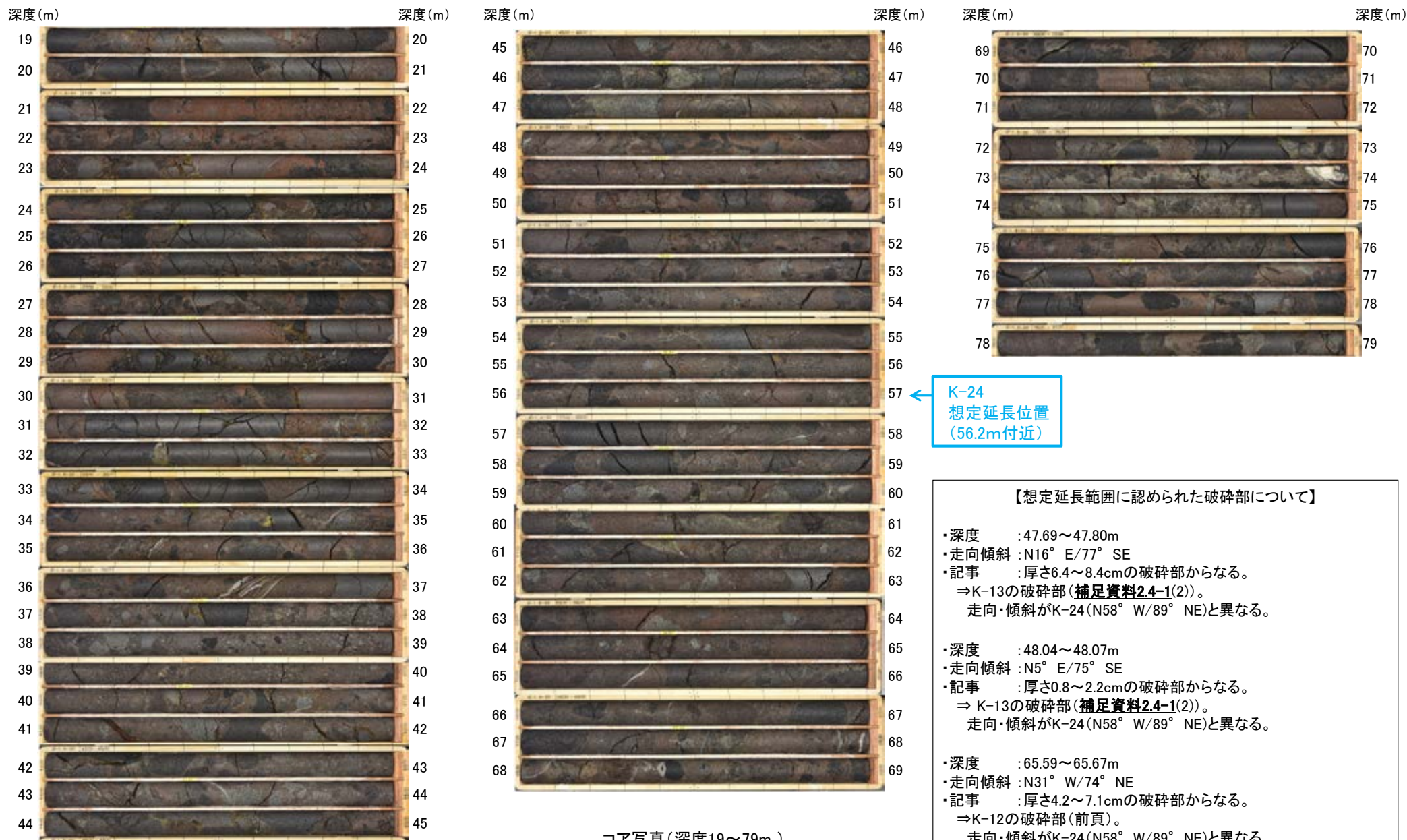
③-2 ③-1 N31° W/74° NE

コア写真(G'-1.5-30孔 深度65.67m) 下は破砕部加筆

【G'-1.5-30孔 コア写真】

G'-1.5-30孔 (孔口標高4.65m, 掘進長90m, 傾斜30°)

柱状図はデータ集1



コア写真(深度19~79m)

K-24
想定延長位置
(56.2m付近)

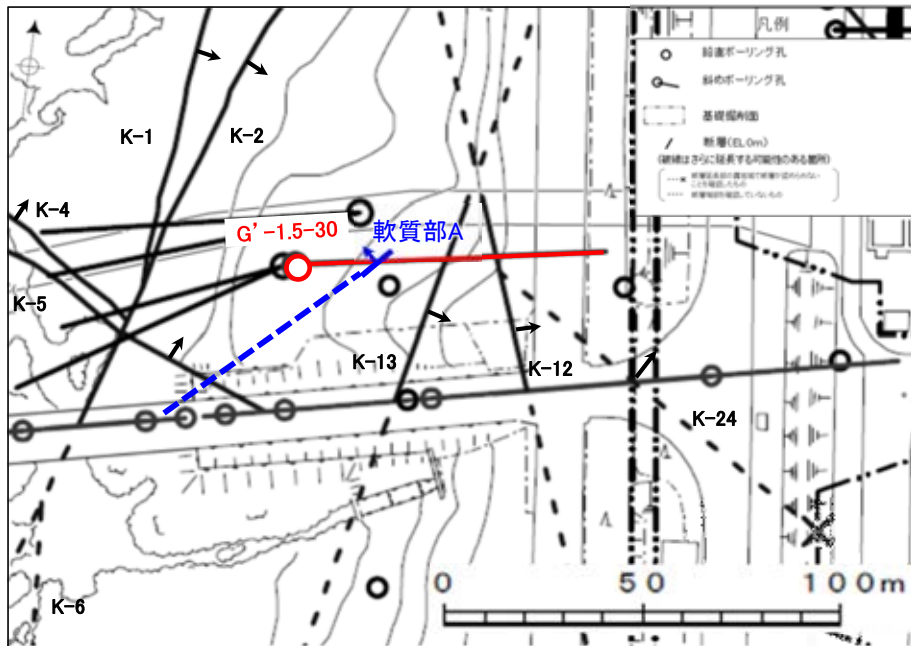
【想定延長範囲に認められた破砕部について】

- ・深度 : 47.69~47.80m
- ・走向傾斜 : N16° E/77° SE
- ・記事 : 厚さ6.4~8.4cmの破砕部からなる。
⇒K-13の破砕部(補足資料2.4-1(2))。
走向・傾斜がK-24(N58° W/89° NE)と異なる。
- ・深度 : 48.04~48.07m
- ・走向傾斜 : N5° E/75° SE
- ・記事 : 厚さ0.8~2.2cmの破砕部からなる。
⇒ K-13の破砕部(補足資料2.4-1(2))。
走向・傾斜がK-24(N58° W/89° NE)と異なる。
- ・深度 : 65.59~65.67m
- ・走向傾斜 : N31° W/74° NE
- ・記事 : 厚さ4.2~7.1cmの破砕部からなる。
⇒K-12の破砕部(前頁)。
走向・傾斜がK-24(N58° W/89° NE)と異なる。

・G'-1.5-30孔において想定延長位置付近にK-24は認められない。

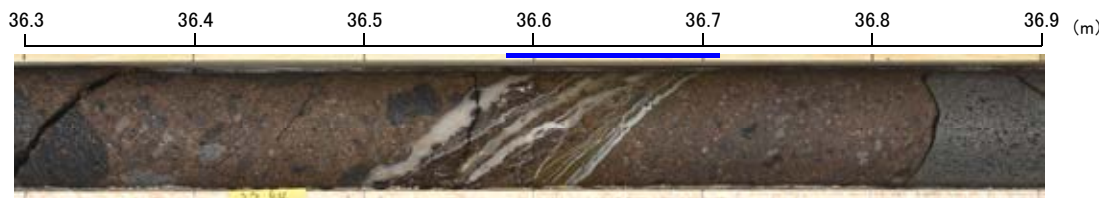
【G'-1.5-30孔 深度36.6mの軟質部】

○G'-1.5-30孔は、K-24が隣接するK-12を越えて連続しないことを確認したボーリングであり、K-24に対応する破砕部は認められない。
 ○一方、G'-1.5-30孔の深度36.6mに軟質部(以下、軟質部Aと称する。)が認められるが、軟質部の周囲に変形構造が認められないことから、破砕部ではないと判断している。
 ○しかし、グラウトにより内部構造が乱され、破砕部か否か明確に判断できないことから、軟質部Aが破砕部と仮定した場合、周囲に連続するかどうか検討した。
 ○検討の結果、軟質部Aの想定延長位置(取水路沿いのボーリング調査結果)に破砕部は認められず、破砕部と仮定した場合でも連続性が乏しい破砕部であることを確認した(次頁)。



矢印(➤)の向きは断層の傾斜方向を示す

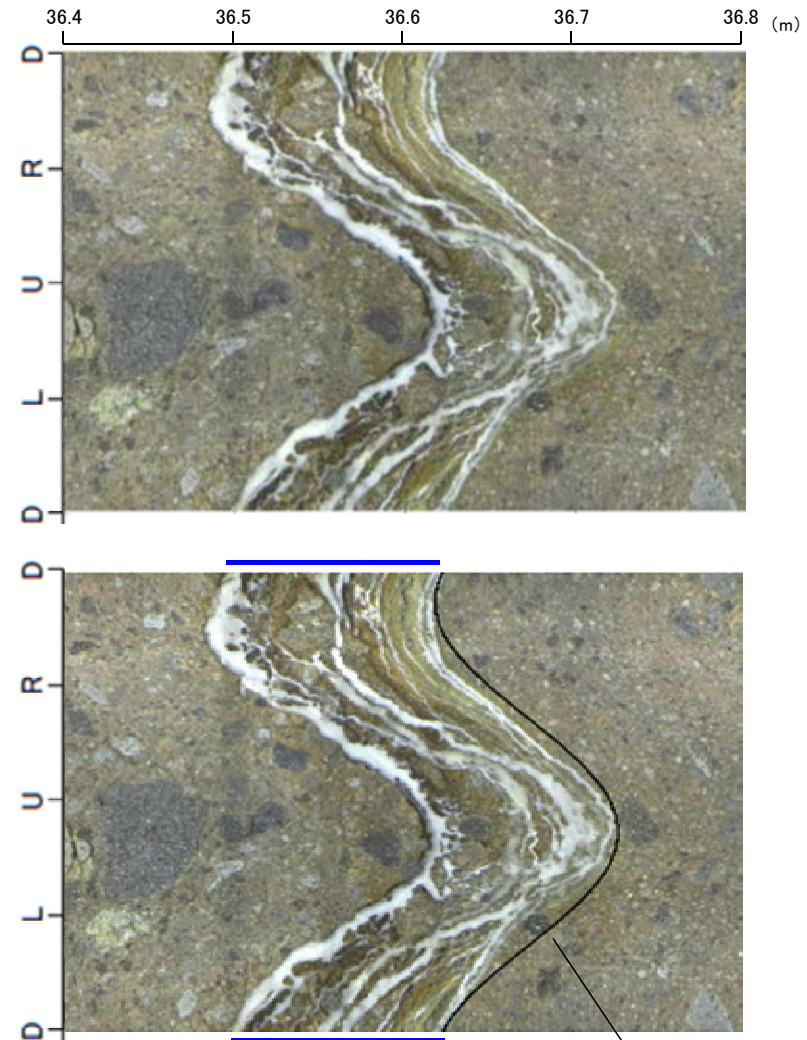
位置図



本コアには一部、グラウト影響(白色～灰色)が認められる。

— 軟質部A

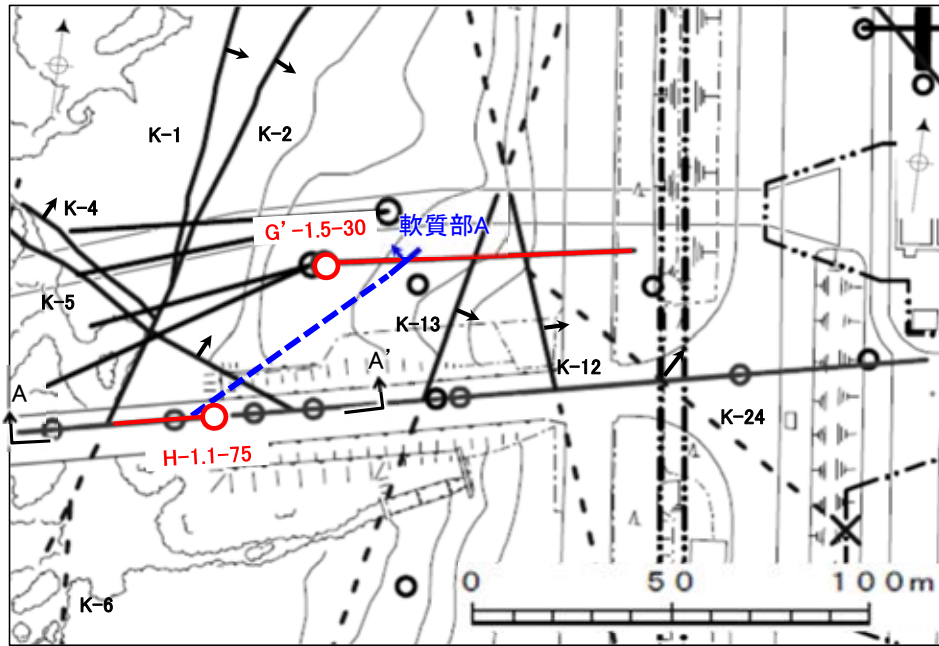
コア写真(G'-1.5-30孔 深度36.3~36.9m)



走向・傾斜:N50° E/21° NW

BHTV画像 下はトレースを加筆

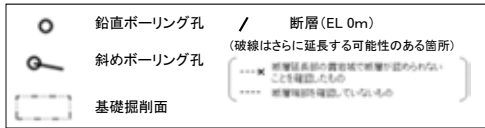
【軟質部Aの想定延長位置(取水路沿いのボーリング調査結果)】



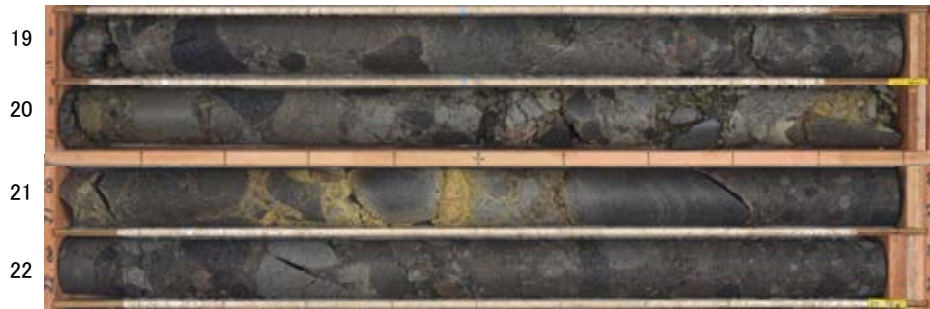
矢印(➡)の向きは断層の傾斜方向を示す

位置図

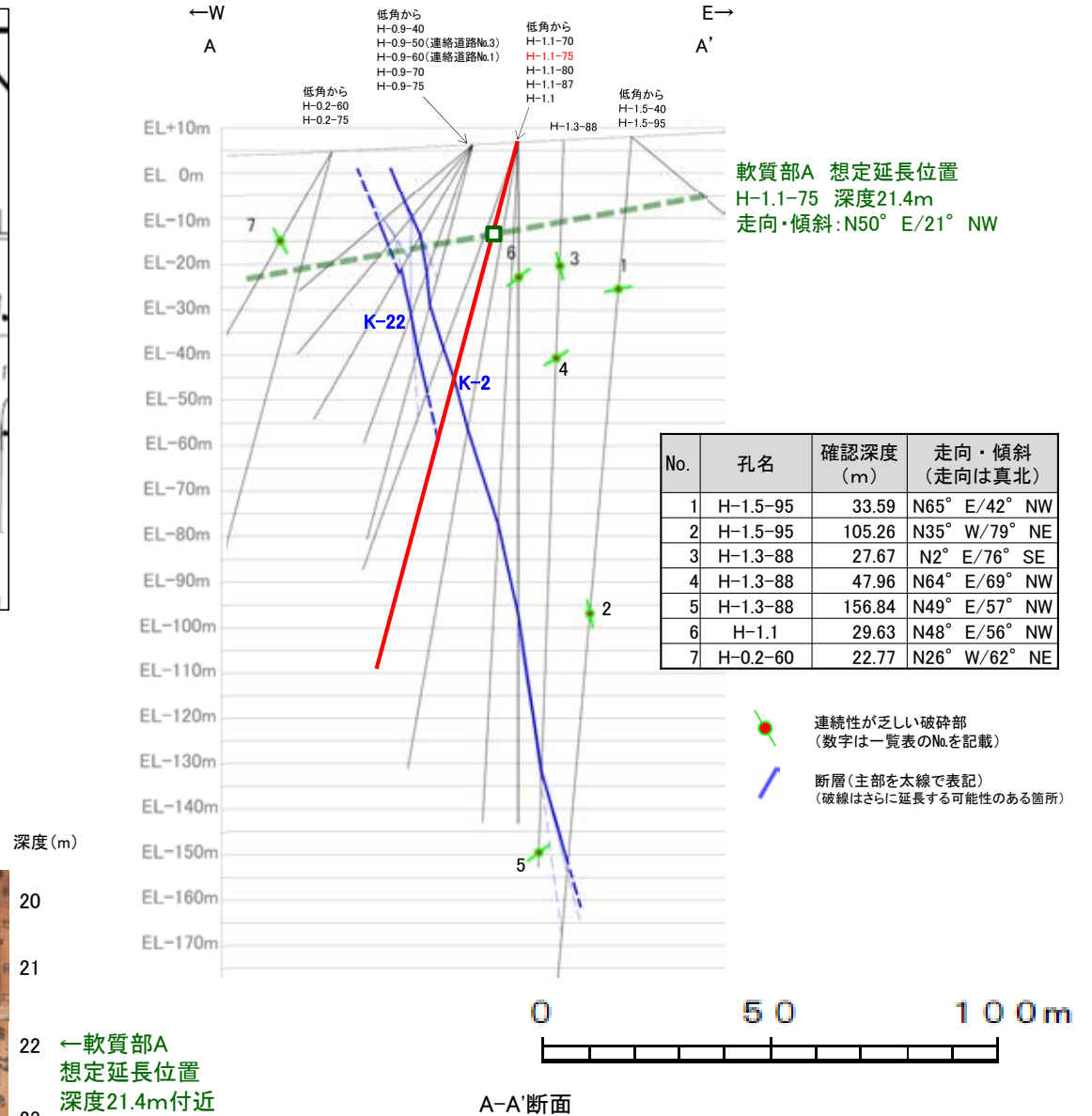
凡例



深度(m) H-1.1-75孔(孔口標高6.78m, 掘進長120m, 傾斜75°)



コア写真(H-1.1-75孔 深度19~23m)



深度(m)

←軟質部A
想定延長位置
深度21.4m付近

A-A'断面

・取水路沿いのボーリング調査において想定延長位置付近に軟質部Aに対応する破砕部は認められない。